



© JFA / PR



NADESHIKO JAPAN

VOL.45 2022.12.26

普及コーディネーター取り組み事例紹介①

茨城県

廣原 啓二さん

【中学校年代への取り組みについて】

当県では中体連サッカー部の活動のみの女子選手も参加できる練習会を、トレセンマッチデーにトレセン活動と平行して開催してきました。ただしセントラル開催につき参加者が限定される傾向にあるため、県南及び県北の2拠点での活動も追加して行ってきましたが、コロナ禍により約2年半中断しています。

現在も月1回のトレセン活動と平行する練習会は継続していますが、10月15日(土)開催の「中学生女子サッカー部フェスティバル@夢フィールド」に参加したことを機会に、プレー環境の整備をあらためて検討しています。

フェスティバルに参加した選手及びご家族からは、高校生になってからもサッカー継続できるかの不安の訴えもあり、県内高校女子サッカー部・U-18クラブともつながりを図りながら、工夫した活動を展開していきたく考えています。

さらに取り組みを継続させるために、スタッフ(女性指導者の積極育成・3種との連携強化)、活動拠点など活動体制の整備を進めていきたいと思ひます。

【ガールズゲームへの取り組みについて】

10月に第20回茨城県少女サッカー大会を開催し、ガールズゲーム2022関東へ出場する県代表2チームを決定するための予選を兼ねて行われ、県少女サッカーリーグに参加している12チームのうち11チームが参加した。昨年第1回のガールズゲーム2021関東が開催直前にコロナ禍により中止となり、今回は無事行われることを祈っている。

また、残念ながらガールズゲーム出場を逃した次点のチーム(当県からは2チーム参加予定)を集めた大会が2月に群馬県で開催されることを聞いており、徐々に県を越えた交流の場が再開されつつあることは嬉しい限りである。

さらにガールズのプレー環境の充実に向け、県内はもちろん隣県の関係者とも連携を図っていきたいと考えている。

【JFA女子サッカーデーへの取り組みについて】

2月中旬に開催予定のJリーグプレシーズンマッチとのコラボ企画を予定しており、フェスティバル形式でのイベント実施を計画している。コロナ禍の影響でこれまで一度も実施できず、昨年と同様な内容で企画したが感染拡大で断念しており、何とか初の開催ができればと思っている。

企画内容については、これから検討に入る段階ではあるが、コラボ企画であるためプロチームの協力を得ながら、女性指導者、女子チームのスタッフ・選手を取り込みながら準備を進めていきたい。



【今後の目標】

女子登録選手数を増やす取り組みとして、グラスルーツ年代(未就学児～小学校低学年)を対象とした身近な場所でのサッカー環境(やり場)の整備を今後の目標として捉えている。

これまで行ってきた県内全域からの参加者を期待するフェスティバルでは普及につながりにくいため、具体的には「なでしこひろば」のようなサッカースクールが県内各地で展開されることを目指すものである。

まず手始めとして、既存資源の有効活用として「JFAなでしこひろば」の認定団体が県内に9つあるが、有意義に活動が行われてない実態が見えるため、認定団体を一堂に会する交流(意見交換)の場を設定し、実態把握、課題の共有、初志を呼び戻し再開・継続するために必要なサポート策などを見出したいと考えている。

普及コーディネーター取り組み事例紹介②

栃木県

大森 美幸さん

【中学校年代への取り組みについて】

<タイトル>栃木県的女子サッカーの発展を目指して・・・

女子の普及において一番難しい課題だと思っています。U-12年代～U13年代へ繋げる(架橋)・維持(続けてもらう)・目標(進路や身近な環境)の整備が必要で、女子選手が環境によって大きく変わってしまう年代でもあります。県グラスルーツ委員会と協力し、様々な取り組みを考えています。コロナ感染拡大の中、昨年度までは思うような開催が出来ませんでした。年間2回の県内の3種所属中学生年代の交流戦(8人制)開催を予定しています。今年10月にいちご会とちぎ国体が開催され、それを観戦した女の子がサッカーに興味をもち、サッカーを始める・続けられる環境を整備していく必要があります。次年度はU-12年代と中学年代が同会場で活動できる場の提供などの準備も進めていきたいと思っています。

【ガールズゲームへの取り組みについて】

ガールズゲームの取り組みとして、栃木FAでは小学生女子単体のチームが少なく、また少人数によりチームとしての活動が厳しいといった状況であります。ガールズゲームへの参加にあたり今年度、4種的女子担当者・各クラブチーム代表者との打合せを設けさせて頂き、今後のガールズゲームの参加をどの様にして行くか…などの明確な目的や優先順位などを設定しました。

(①女子チーム単体出場②女子チームの合同出場③4種登録チームの女子所属選手での合同④地区での女子選手合同)

今後この中で予選などが出来ればと思っています。多くの選手が女子だけの大会参加などを体験出来る様、JFAガールズゲームだけではなく県内で女子だけのゲーム大会や近県との交流などが出来ると良いとの声もありました。

【JFA女子サッカーデーへの取り組みについて】

昨年度は2022年3月6日に栃木県カンセキスタジアムにて、コロナ過ではありましたがなんとか開催出来ないかと考え、なでしこjapanの国際試合で使用した素晴らしいピッチ&ロッカールームを県内の女子選手たちが使用し、スタジアム内を堪能できる企画にしました。チーム単位で時間を区切り、ピッチ半面でそれぞれにトレーニングやゲームを行いました。時間帯でチームを入れ替え(消毒作業含む)多くの選手やスタッフが楽しめたと思います。またU-12県トレセン女子はこの場をトレセン最終日とし閉校式を行い、「とても良い思い出となりました」との声も頂きました。今年度の3月女子サッカーデーもより多くの県内の女子選手や未登録者の女子が楽しくサッカーが出来るような企画を目指していきます。





【今後の目標】

①各年代を繋げるための施策

- ・フェスティバル参加者（今年度低学年未登録の女子が多く参加してくれた実績）をなでしこひろばやサッカーチーム等への登録に繋げる。
- ・小学生から中学生、中学から県内高校でサッカーを続けたいとなるような仕掛けや情報提供。

②協力者を増やす

- ・中体連や高体連の先生との意見交換や他種別から協力して下さる方を増やす。

③県内のなでしこひろばの拡大

- ・未開催地区などの情報収集や意見交換

その他：県北の私立高校に2023年度女子サッカー部の設立が決まっているので、色々な場面で協力・広がりが出来る事と思っています。

普及コーディネーター取り組み事例紹介③

群馬県

【中学校年代への取り組みについて】

宇津江 智保さん

昨年10月よりFA主催で「中体連女子練習会」を始め、今年度も継続して4月から月に1回、週末の夕方の日程で実施しており、それぞれの活動がある中にもかかわらず、毎回15名を超える選手が参加してくれています。また、指導コーチは、中体連の顧問の先生やFAコーチ、ユースダイレクター、トレセンコーチなどが担当して下さり、多くの方のご協力をいただいて開催ができて



います。選手同士の横のつながりや、女子だけで練習をすることで積極的にプレー出来て楽しかったという意見をいただいていますので、今後も継続していきながら、より多くの中学生女子に参加していただけるよう工夫を凝らしていきたいと思います。



【ガールズゲームへの取り組みについて】

昨年度は残念ながら中止となってしまった関東大会ですが、今年度1月末に千葉県で開催が予定されています。群馬県からは2チーム出場権があり、10月末と11月上旬の2日間で出場権をかけた大会が行われ、8チームの参加がありました。予選リーグと順位決定トーナメントの実施により、すべてのチームが同じ試合数を行うことができ、この年代のプレー環境の充実と普及というところに多くの方のご理解とご協力をいただいて実施ができていると感じました。

今後も、多くの方々と情報共有しながら、この年代の選手たちにとってのよりよい環境づくりを考えていきたいと思えます。



【JFA女子サッカーデーへの取り組みについて】

昨年度は、新型コロナウイルスの影響で大規模開催が難しい状況下のため、規模を縮小してGuFA女子サッカーデーと称しての実施でした。なでしこリーグ1部のバニーズ群馬FCホワイトスターさんのご協力をいただき、ホーム開幕戦前の時間帯のピッチをお借りし、選手たちと一緒にウォーキングフットボール中心の内容で行いました。U12/U15女子チームの親子参加もあり、きれいな芝生の上で皆さん楽しんでプレーしてくださいました。今年度は2月末に実施予定です。内容については、JFAの施策も参考にさせていただきながら、より多くの方にご参加いただけるよう、FAの女子委員会とも連携を図りながら進めていきたいと思っております。



【今後の目標】

昨年度と今年度、D級コーチ養成講習会女性コースを年2回開催し、受講された方がC級へチャレンジされたりイベントにスタッフとしてご協力くださったりと、サッカーへの関わりを拡げてくださる例が増えています。今後も継続して女性の関わりを増やしていければと思います。

また、昨年度から女性審判員の3級昇級規定の見直しを図っていただき、昇級を希望してくださる方が増えました。年度当初に女子委員会内で、2級以上の女性審判員の人員不足の現状を共有していただいたので、様々なご意見を参考にしながら策を講じていきたいと思っております。今後も多くの方のご理解とご協力をいただきながら、FA全体として普及に取り組んでいきたいと思っております。



2022年シーズンも ありがとうございました

Thank you for all your support this season.

今シーズンもなでしこリーグに対し、多くのご支援・ご協力を賜り誠にありがとうございました。
2023年シーズンも全22チームとともに女子サッカー発展のために尽力いたします。





なでしこリーグには試合以外でもたくさんの笑顔が溢れています。
試合前後のオフシーンなど、なでしこリーグにあふれる素敵な写真をご紹介します。



なでしこリーグから笑顔をお届け



なでしこリーガー達に今シーズンを振り返ってもらい、今年ハマったものやオススメを教えてくださいました。



私にとっての2022シーズン



なでしこリーグHP「[ニュース](#)」よりご覧ください。



『2022プレナスなでしこリーグ1部』の試合の名シーンをチームごとに振り返ります!

なでしこリーグHP コラム連載更新！



伝統を引き継ぎ「**なでしこ**」の名に
込められた選手の魅力を探ります。
様々な挑戦をしている選手たちに
ぜひ注目してください。

コラムのリンク先は[こちら](#)

⑬切畑 琴乃 (V三重・GK)

「わずか10カ月間の引退から再起」



⑭岸野 早奈 (湯郷ベル・FW)

「レジェンドの背中に教えられたもの」



⑮西村 留亜 (吉国大C・FW)

「夢を叶えたエスコートキッズが、
今度は夢を抱かれる存在を目指す」



【開催の様子をご紹介します】



◆エスパルスサッカースクール（静岡県）11月6日（日）

場所：エスパルスドリームフィールド富士（富士市久沢237-3）

対象：年中～小学6年生

人数：年中・年長5名、小学生9名

【活動内容】

はじめはみんなで体を温めるためにボール当ておにごっこからスタートしました。ボールフィーリングは、手から始めてボールを扱うことに慣れてから足のボールタッチ、タップなど行いました。サッカー初心者の子たちも一生懸命に取り組んでくれました。



その後、3グループに分かれ「シュート・ドリブル・対人」3つのトレーニングを行いました。サッカー初心者の子もコーチが伝えたポイントを意識しながら一生懸命に取り組み、少しの時間でとても上達していました。

最後の試合もグループごとに行ないましたが、どのグループも元気よく、一生懸命ボールを追いかけ、練習したことをチャレンジしました。点を取ったら「やったー！」とみんな喜び、「次はここから攻めて、ボールを取られたらみんなで取り返しに行こう！」など作戦を立てて取り組む姿もありました。



◆GENKI Football Club Tokyo Fuchu (東京都) 11月26日 (土) ほか

毎月1回開催を目標に「JFAなでしこひろば」をGENKI FC [<https://genki-fc.jimdofree.com/>] と近隣チームの府中なでしこ [<https://fuchunadeshiko.jimdofree.com/>] そして、小金井CITY FC [<https://koganeicityfc.jimdofree.com/>] と共同開催しています。

はじめてのコも、いつもの仲間たちも、毎回「楽しかった！また来る！」と笑顔をくれます。

12月にはこの「JFAなでしこひろば」で集まったメンバーで「ニーニャスリーグ」という東京都サッカー協会主催の小3までの大会に参加しました。この「JFAなでしこひろば」と「ニーニャスリーグ」をきっかけにサッカーをはじめたコもいます。



サッカーと良き出会いができる場所として、サッカーを楽しくできる場所として、今後も継続して「JFAなでしこひろば」を開催し、1人でも多くのサッカーファミリーを増やしていきたいです。

☆こちらの開催はホームページにも掲載しています。こちらも併せてごらんください☆

<https://genki-fc.jimdofree.com/20221126/>

◆とちぎなでしこひろば（栃木県）12月9日（金）

毎月1回、小学生女子（初心者コース・経験者コース）～大人の女子が誰でも楽しく参加できるサッカーひろばを開催しています。大人の方も大歓迎です。

全員が女子の指導者で開催します。皆様、お誘い合わせの上、ご参加をお待ちしております！



【なでしこひろばデータをまとめてみました】

都道府県別認定団体数及び2022年11月開催申請数

都道府県	団体数	開催申請数	都道府県	団体数	開催申請数
1 北海道	17	7	25 滋賀県	8	3
2 青森県	5		26 京都府	8	1
3 岩手県	5	6	27 大阪府	19	7
4 宮城県	11	1	28 兵庫県	11	1
5 秋田県	3	1	29 奈良県	3	
6 山形県	2		30 和歌山県	3	
7 福島県	2		31 鳥取県	8	4
8 茨城県	9	4	32 島根県	1	
9 栃木県	16	3	33 岡山県	11	7
10 群馬県	5		34 広島県	10	
11 埼玉県	38	4	35 山口県	2	
12 千葉県	12		36 香川県	8	
13 東京都	63	14	37 徳島県	5	2
14 神奈川県	24	2	38 愛媛県	4	1
15 山梨県	6	3	39 高知県	2	
16 長野県	12	6	40 福岡県	13	1
17 新潟県	7	2	41 佐賀県	6	1
18 富山県	4	2	42 長崎県	7	1
19 石川県	6	1	43 熊本県	4	
20 福井県	6	3	44 大分県	5	
21 静岡県	13	3	45 宮崎県	3	
22 愛知県	22	2	46 鹿児島県	2	
23 三重県	10		47 沖縄県	8	
24 岐阜県	5		合計	454	93

【2022年11月データ】

- ・ 全国登録団体数 : 454団体
- ・ 新規登録団体数 : 2団体
- ・ 認定団体数の全国トップ3
 - 1) 東京都 (63団体)
 - 2) 埼玉県 (38団体)
 - 3) 神奈川県 (24団体)
- ・ 全国開催申請数 : 93開催
(10月の開催申請数から12開催増)

12月もあとわずか、今年も1年、ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。止まっていた活動が再開され、少しずつではありますが、いろいろなことができるようになってきたのではないのでしょうか。11月は、開催申請数自体もそうですが、開催のあった県の数も増えています。今後とも、ご無理のない範囲で、楽しくなでしこひろばを開催していただけたら幸いです！皆様、よいお年をお迎えください。

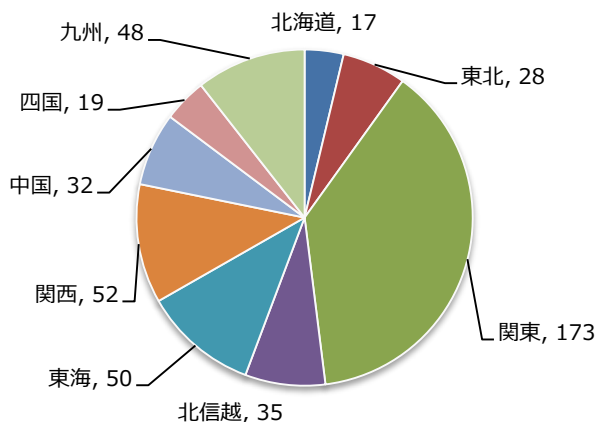
地域別認定団体数

北海道	17カ所
東北	28カ所
関東	173カ所
北信越	35カ所
東海	50カ所
関西	52カ所
中国	32カ所
四国	19カ所
九州	48カ所
【合計】	454カ所

【事務局の受け付けが変更になっております】

2021年4月から、なでしこひろば事務局の受け付け・お問い合わせ方法をメールのみの対応とさせていただきます。これまでの電話受け付けがなくなり4月1日以降はメールのみの対応とさせていただきます。各団体様にはご不便をおかけいたしますが、何とぞご了承のほど重ねてお願い申し上げます。

E-mail : info@nadeshikohiroba.jp
(今までのアドレスと変更ありません)



<http://www.jfa.jp/nadeshikohiroba/>